

レンジフード 取付説明書



安全上のご注意.....	2～3
取り付け上のお願い.....	4
取り付け前の調査と準備.....	5～6
各部のなまえ.....	7
付属品.....	7
製品寸法図.....	8
取り付けかた.....	9～19
1. 排気方向の決定.....	9
2. 本体の取り付け.....	10～12
3. ダクトと排気用部品の接続.....	13
4. 電気配線.....	14
5. ダクトカバーの取り付け.....	15
6. フードの取り付け.....	16～18
7. 試運転.....	19
8. お客様への説明.....	19

販売店・工事店様へ：
この取付説明書は取り付け後、
施主様へ必ずお渡しください。

取り付け前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、
正しく取り付けをおこなってください。

1303 D381



安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 **警告**：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

 **注意**：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



○ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告



分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



取付注意

- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります



アースを
取り付ける

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



取付注意

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります



取付注意

- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

安全上のご注意

警告



埋込禁止

- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります



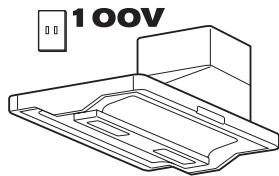
取付注意

- レンジフードの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないように取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります



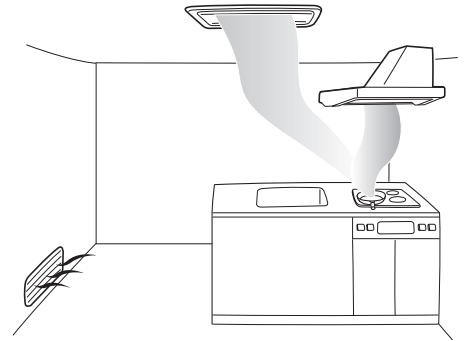
使用禁止

- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



取付注意

- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

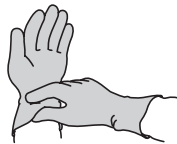


注意



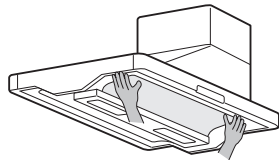
手袋をする

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



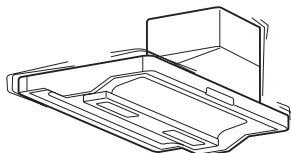
取付注意

- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



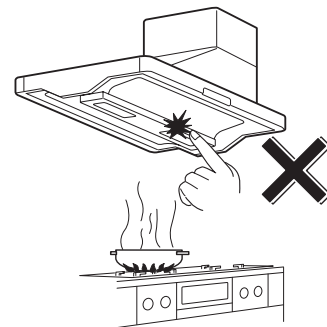
使用禁止

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
感電および故障の原因になります



接触禁止

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります



取付禁止

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

取り付け上のお願い

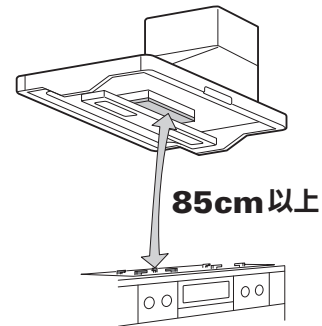
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。

- 大工工事
(設置のための下地工事等)
- 配線工事
(コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等)
- 管工事
(ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等)

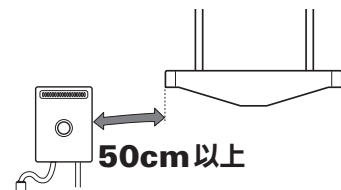
流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
また調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は $400\text{m}^3/\text{h}$ 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

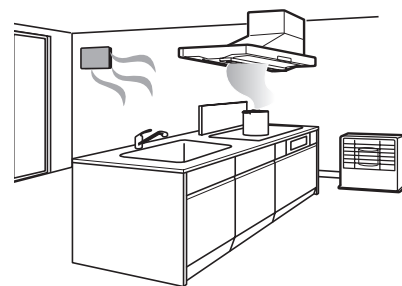
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。なお、製品取付高さは、アクアスリットフィルタの下端が調理機器の真上 85cm 以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm^2 程度の空気取入口を設けてください。



- レンジフード取り付け面の木部に、取り付け用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取り付け用座付ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取り付け用座付ねじが確実に木部に届くことを確認してください。

取り付け前の調査と準備

警告



分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



取付注意

- レンジフードの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないように取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります



埋込禁止

- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります



取付注意

- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すが、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください



取付注意

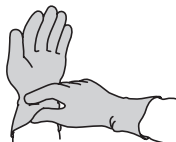
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

注意



手袋をする

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



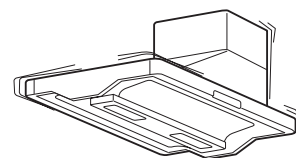
取付禁止

- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります



取付注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



取り付け前の調査と準備

1 取付面の強度確認

製品を支える強さが必要です。

製品質量

33.0 kg

■ 板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）

- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合

- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

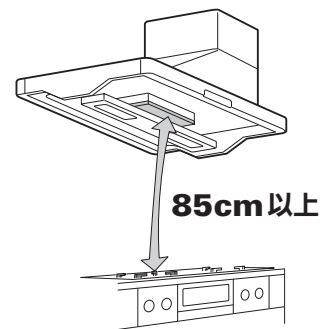
■ 土壁の場合

- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでおいてください。

2 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面からアクアスリットフィルタの下端まで 85cm です。

※ 火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。



3 別売部品の準備

排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

4 電源コンセント・ブレーカー

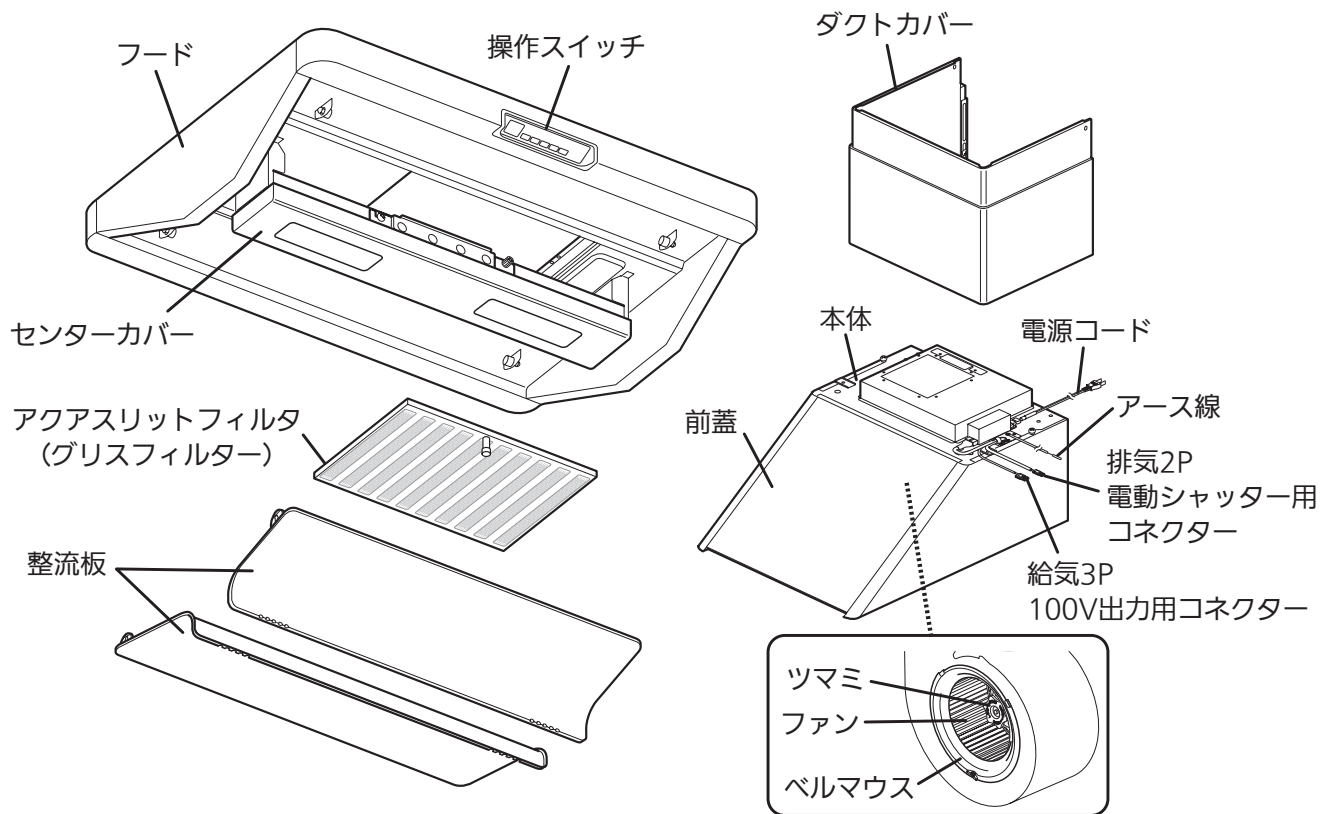
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

※ 詳細は「4. 電気配線」（14 ページ）をご参照ください。









お願い

必ずアース（D 種接地工事）をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ

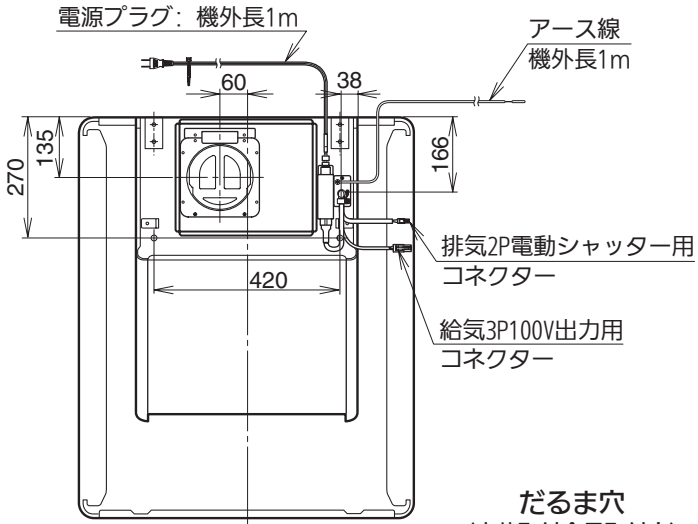


付属品

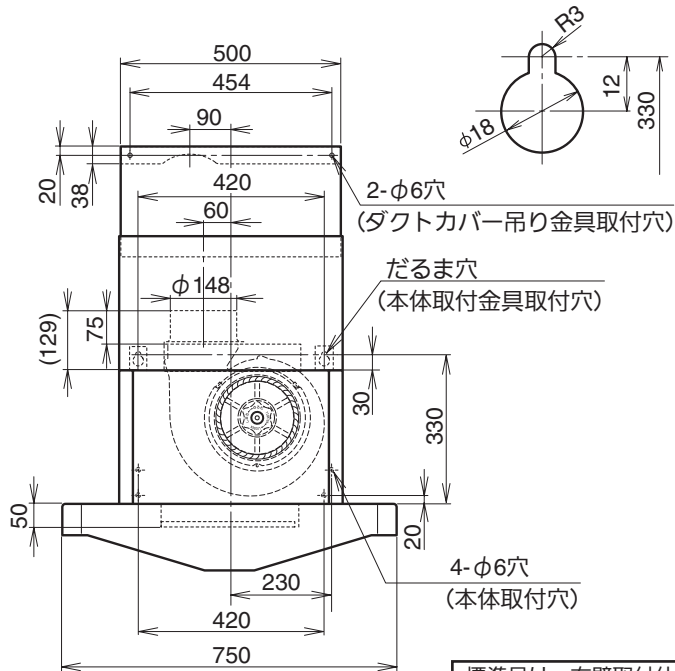
	座付ねじ (φ 5.1 × 45) (8本)	本体およびダクトカバーの取り付けに使用します。
	化粧ねじ (M4 × 8) (4本)	ダクトカバーおよびフード引掛金具の取り付けに使用します。
	トラスねじ (M5 × 12) (2本)	本体の取り付けに使用します。
	吊り金具 (2個)	本体の取り付けに使用します。
	ダクトカバー取付金具 (1個)	ダクトカバーの取り付けに使用します。
	フード引掛金具 (1個)	本体に取り付けて使用します。
	ソフトテープ (1本)	排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使用します。
	排気口 (1個)	本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。取付ねじは本体に取り付いています。

製品寸法図

(単位：mm)

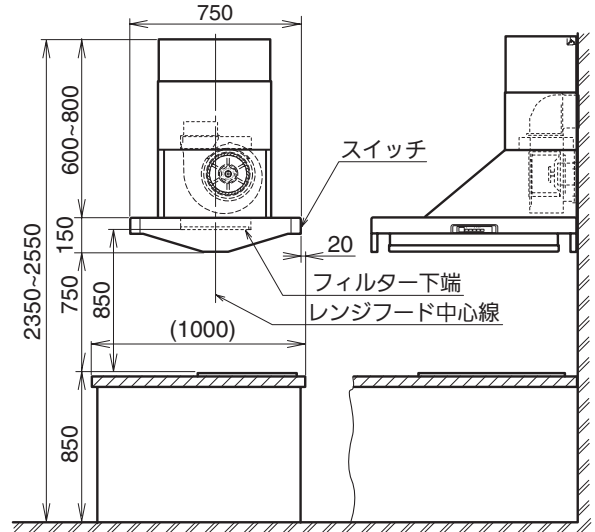


だるま穴
 (本体取付金具取付穴)
 詳細

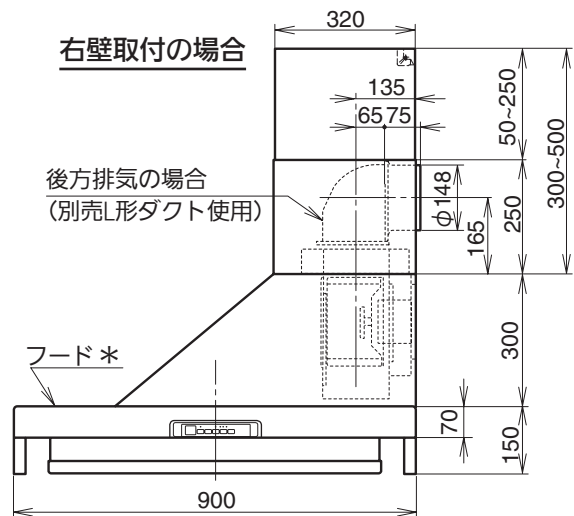


標準品は、右壁取付仕様です。
 左壁取付仕様の場合は本体を
 左右反対に組み付けます。

標準設置例 (右壁取付の場合)



右壁取付の場合



*本図は梱包時の製品状態を示し、前面 (スイッチ部)
 を反対向きにして取り付ける場合は、フード本体を
 180度反転させて取り付けます。

取り付けかた

1. 排気方向の決定

警告



取付注意

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります



取付注意

- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります



取付注意

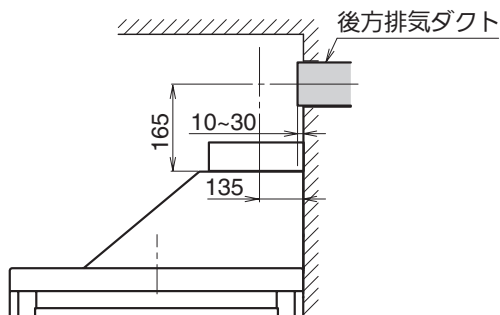
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すが、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。
また、コンセントの位置を確認してください。（「4. 電気配線」（14 ページ）参照）

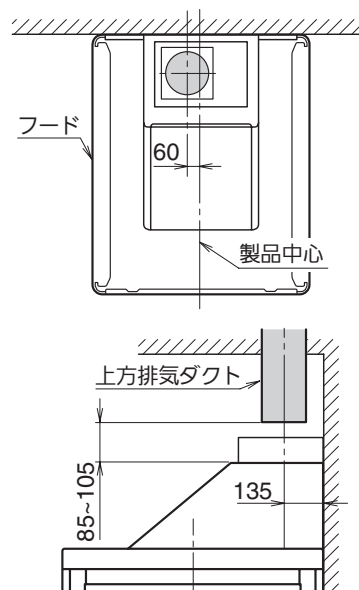
2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。（コンクリート、タイル、土壁の場合）

■ 後方排気の場合

（別売の L 形ダクトを使用する場合）



■ 上方排気の場合



（単位：mm）

取り付けかた

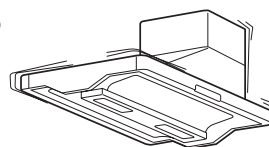
2. 本体の取り付け

⚠ 注意



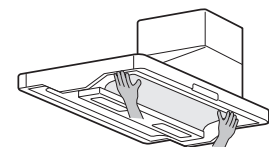
取付注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に起こなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

- 部品の取り付けは確実に起こなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



1 付属品を確認します。

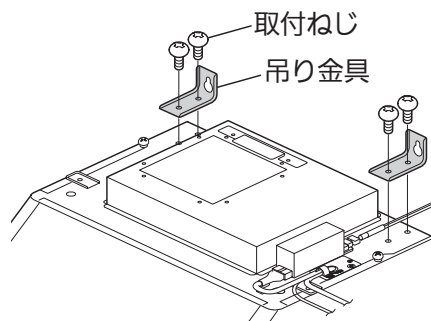
梱包箱から付属品を取り出し、7ページの付属品一覧により不足がないか確認してください。

2 吊り金具を取り付けます。

本体天板に2本ずつあらかじめ取り付けられているねじ各2本を使用し、付属品の吊り金具2個を天板に取り付けます。

お願い

ねじを締め付ける際には、インパクトドライバー等は使用しないでください。ねじ部が損傷するおそれがあります。

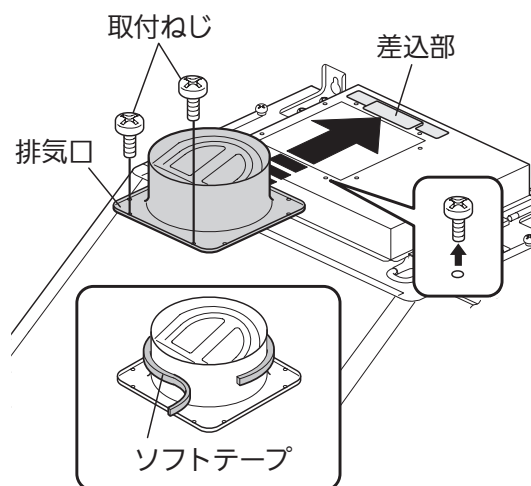


3 排気口を取り付けます。

■ 上方排気の場合

- 1) 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
- 2) 排気口を本体上面の差込部に差し込み、取付ねじ2本で取り付けてください。

※ 取付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に止めてありますのでおらずしてご使用ください。



取り付けかた

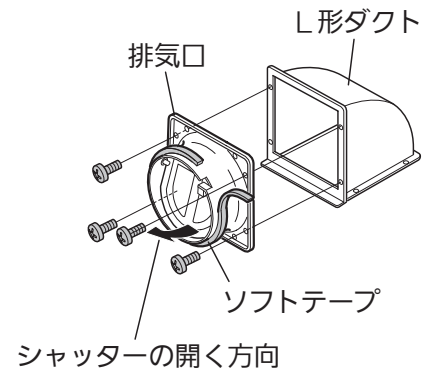
■ 後方排気の場合

(別売のL形ダクトを使用する場合)

排気口に付属品のソフトテープを貼り、別売のL形ダクトに取り付けます。

取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。

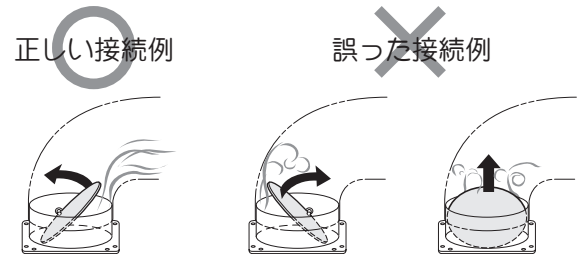
排気口は、L形ダクトに付属の取付ねじ4本でL形ダクトに取り付けてください。



※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後(13ページ)におこないます。

お願い

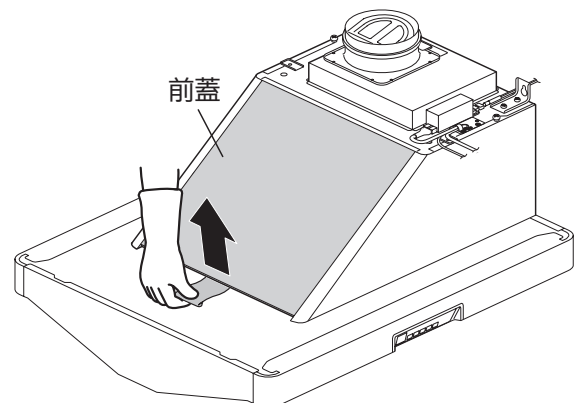
別売のL形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。右図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。



4 フードと本体を分離します。

出荷時、フードと本体はねじ2本で仮止めされています。

- 1) 前蓋(本体斜面)の下側に出ているテープを引き上げ、前蓋をはずします。



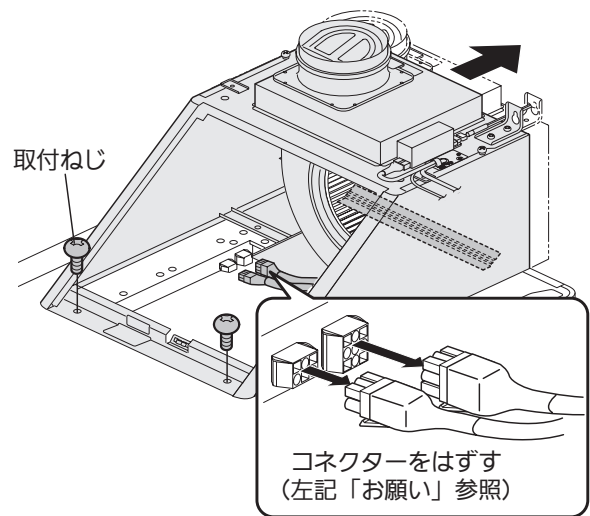
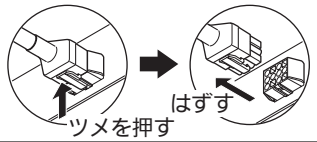
取り付けかた

- フード部に接続している2ヶ所のコネクターをはずします。

お願い

コネクターをはずす際は、ツメの部分を押しながら、まっすぐ引き抜いてください。無理にひっぱると断線するおそれがあります。

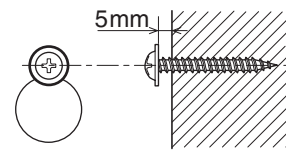
コネクターをはずす場合



- 本体を止めている取付ねじ2本をはずし（ねじはあとで使用します）、本体を矢印の方向にスライドさせてフードと分離します。

5 本体を取り付けます。

- だるま穴用座付ねじをねじ込みます。だるま穴位置左右各1ヶ所に座付ねじφ5.1×45を壁面との隙間5mmまで締め付けてください。

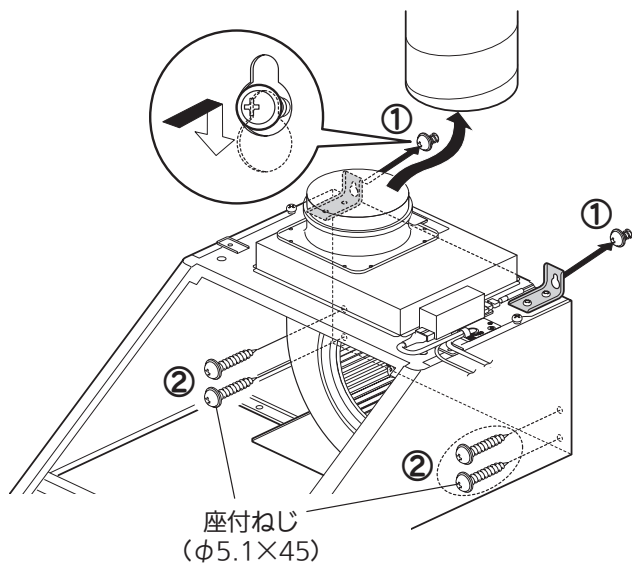


- だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けた後、しっかりと締め付けます（①）。

お願い

上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

- さらに座付ねじ4本で本体下部をしっかりと固定します（②）。

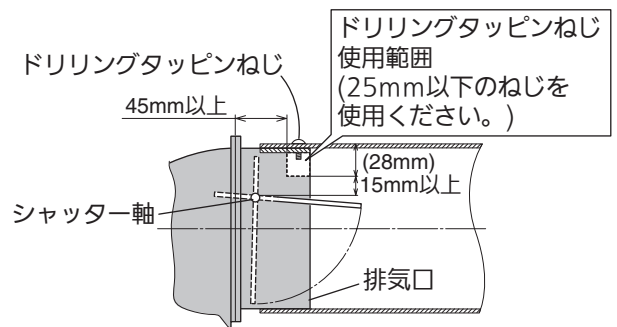


取り付けかた

3. ダクトと排気用部品の接続

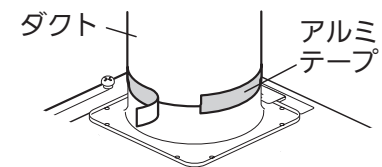
お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングタッピンねじ使用範囲内に固定してください。



■ 上方排気の場合

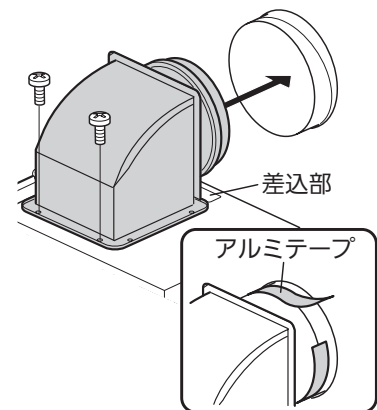
風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) をおこなってください。



■ 後方排気の場合

(別売のL形ダクトを使用する場合)

- 1) 本体に付いているなべねじ2本を取りはずした後、L形ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、取付ねじ2本で取り付けてください。
- 2) 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこなってください。

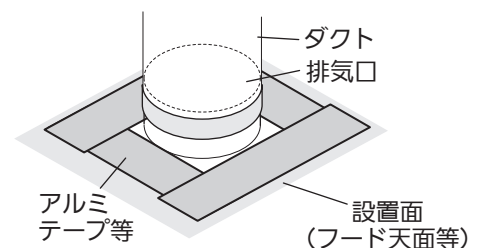


■ 排気口設置面の漏風確認のお願い

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面 (フード天面等) が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。

風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転 (強運転) をおこなってください。

漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等 (現場調達品) で漏風防止処置をおこなってください。



取り付けかた

4. 電気配線

警告



分解・修理・
改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと

発火・感電したり、異常動作してけがを
するおそれがあります



使用禁止

- 交流 100 V 以外では使用しないこと

火災・感電の原因になります



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと

誤った配線工事は感電や火災の原因になります



アースを
取り付ける

- アースを確実に取り付けること

故障や漏電のときに感電するおそれがあります

アースの取り付けは販売店にご相談ください

- コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

- コンセントは電源コードの長さを考慮し、ダクトカバーのサイズに合わせて右図の斜線の範囲内に設置してください。

- 必ずアース (D 種接地工事) をしてください。

- ダンパー連動用 100V 出力線の配線は、電線被服をストリップゲージに合わせてむきます。

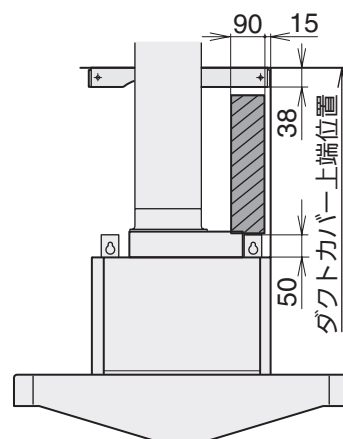
お願い

適用電線は ϕ 1.6 または ϕ 2 VVF 2 芯 Cu (銅) 単線専用です。

- 電源プラグをコンセントに差し込みます。

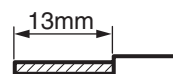
お願い

電源は専用のコンセント (2 極差込接続器 15A 125V) およびブレーカーを設けてください。



(単位: mm)

ストリップゲージ

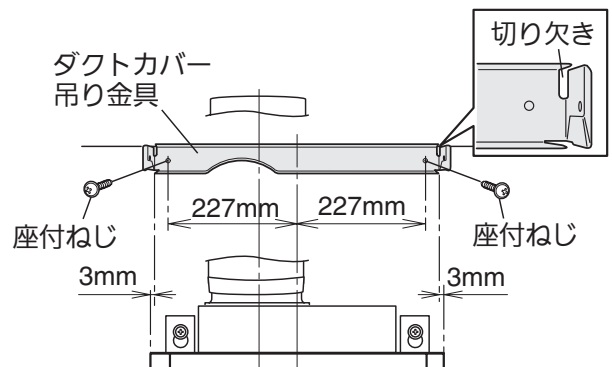


取り付けかた

5. ダクトカバーの取り付け

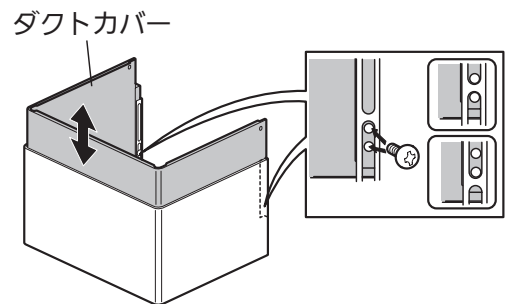
- 1** ダクトカバー吊り金具を取り付けます。
図のように切り欠きのある方を上にして、座付ねじ2本で取り付けます。

※ 本体の寸法に対し、左右約3mm 内側となります。



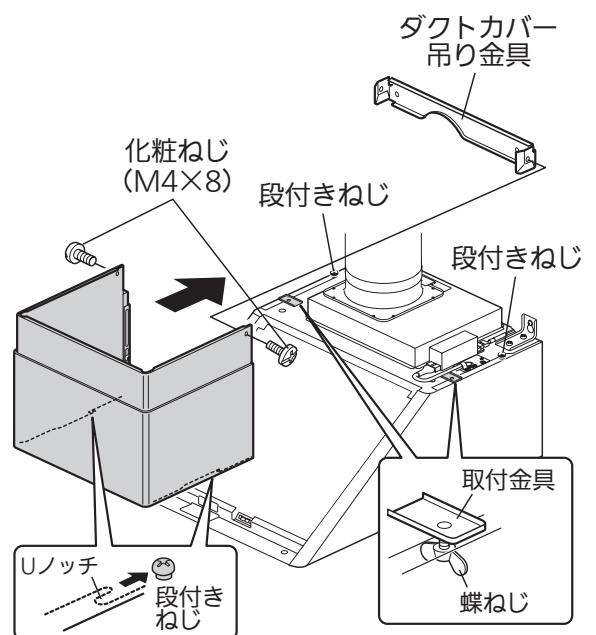
- 2** ダクトカバーの高さを調整します。
ダクトカバーはスライド式になっています。必要な高さを計算し、内面両側のねじをゆるめ、長穴で調整して固定します。

※ ねじ穴は2つありますので高さが合わない場合は入れ替えて使用してください。



- 3** ダクトカバーを取り付けます。
- 1) 本体天面の左右にある取付金具を固定している蝶ねじをゆるめます。
 - 2) 2ヶ所の段付きねじにUノッチが引っ掛かるようにダクトカバーを前から差し込みます。
 - 3) 取付金具の蝶ねじを締めてダクトカバーを固定します。

- 4** ダクトカバーを固定します。
付属品の化粧ねじ (M4 × 8) 2本でダクトカバー吊り金具に固定します。

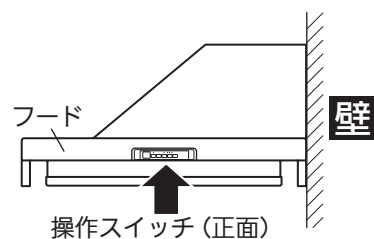


取り付けかた

6. フードの取り付け

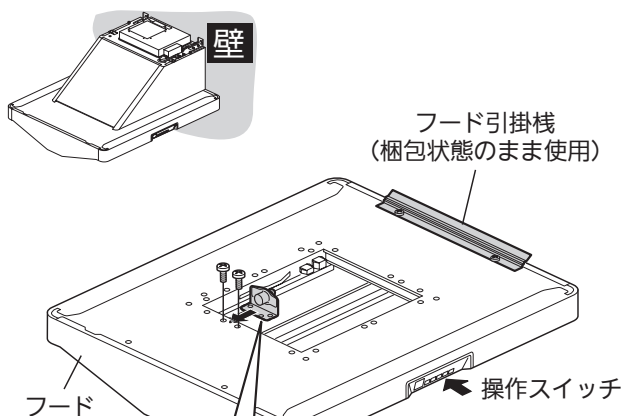
出荷時は、フードの操作スイッチを正面にして、右側が壁面となる仕様になっています。

本製品は出荷時、右壁取付仕様となっています。

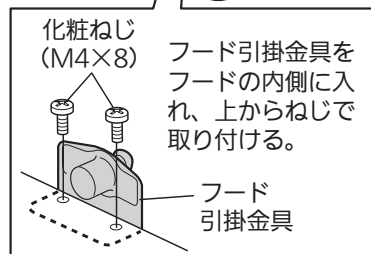


■ 右壁取付の場合

1 操作スイッチを正面にして右側にフード引掛棧があることを確認してください。



2 フード引掛金具を取り付けます。
付属品のフード引掛金具を図のように内側に入れ、付属品の化粧ねじ (M4 × 8) 2本で取り付けます。

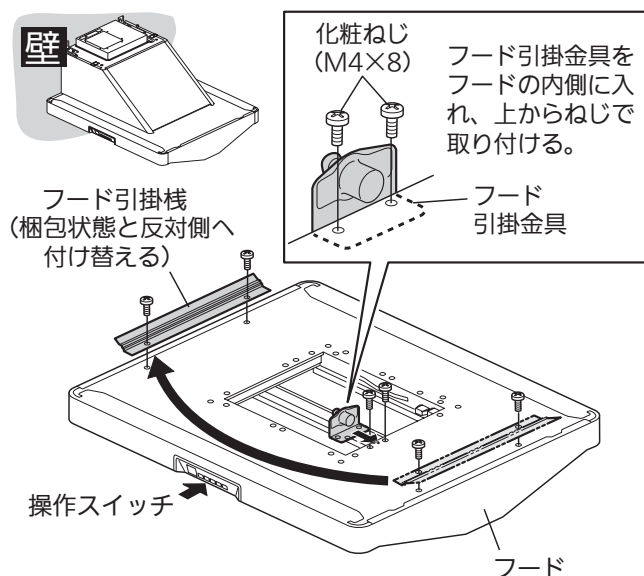


手順 3 に進みます。

■ 左壁取付の場合

1 フード引掛棧を付け替えます。
フード上面にあるフード引掛棧が操作スイッチを正面にして左側になるよう、反対側に付け替えます。

2 フード引掛金具を取り付けます。
付属品のフード引掛金具を図のように内側に入れ、付属品の化粧ねじ (M4 × 8) 2本で取り付けます。



手順 3 に進みます。

取り付けかた

3 フードを本体に引っ掛けます。
フードを持ち上げ、やや左寄りにしてフード引掛
棧を本体のフランジに差し込みます。

4 フードを持ち上げます。
フード引掛金具が本体に「カチッ」とロックする
まで持ち上げます。

お願い

確実にロックされたことを確認してください。ロック
が不完全なまま作業を続けるとフード部が落下するお
それがあります。

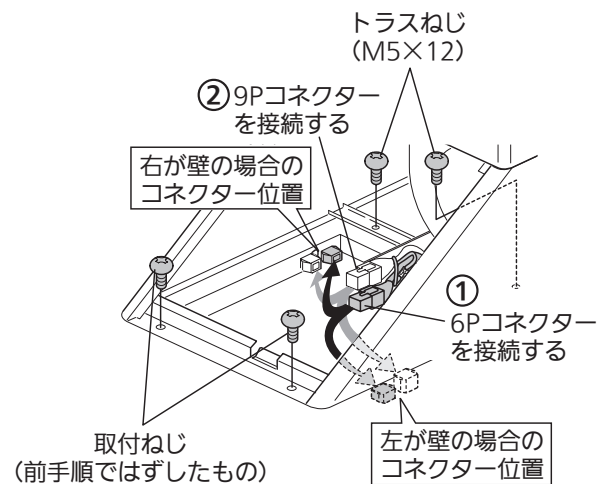
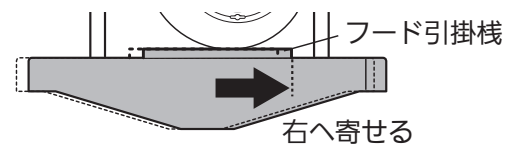
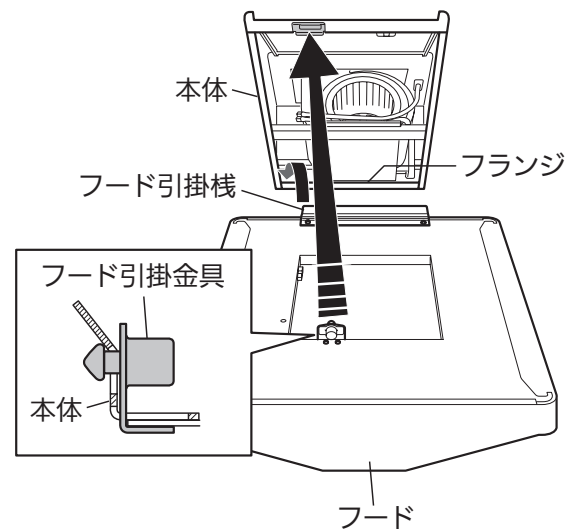
5 フードを右へ寄せます。
本体のフランジとフード引掛棧右端が合わさるま
で寄せると、本体とフードの取付穴が合います。

6 フードを本体に固定します。
本体とフードを仮止めしていたねじ2本（12 ペー
ジ「2. 本体の取り付け」手順4-3）ではずした
ものと、付属品のトラスねじ(M5×12) 2本でしっ
かりと固定します。

お願い

ねじを締め付ける際には、インパクトドライバー等
は使用しないでください。ねじ部が損傷するおそれ
があります。

7 コネクターを接続します。
本体側のコネクター2本をフード側のソケットに正
しく接続します。

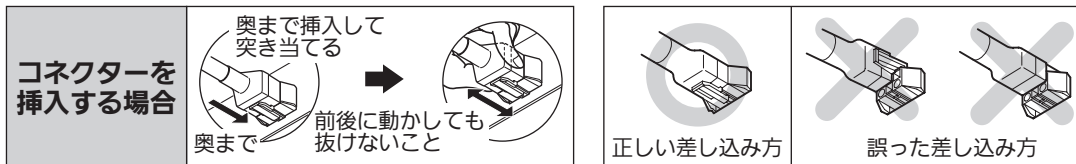


取り付けかた

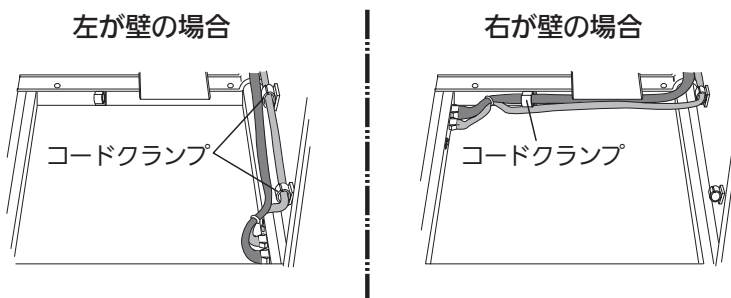
お願い

• コネクターの接続について

コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。
コネクターを確実に接続しないと作動不良や発熱などによる故障の原因になります。

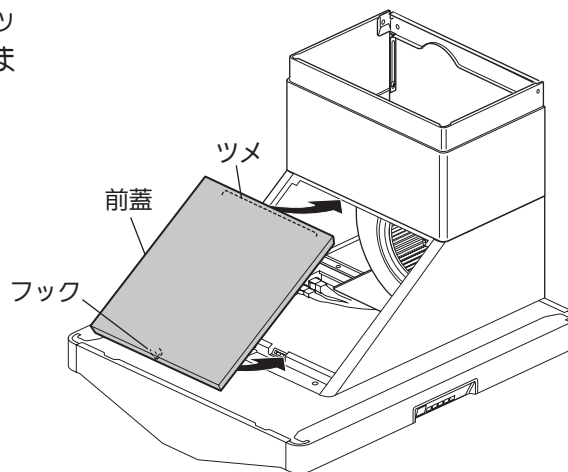


• コネクターのコードがたるむので、どちらか1本をコードクランプで固定してください。



8 本体の前蓋を取り付けます。

前蓋上側のツメを本体に引っ掛け、下側のフックを本体のラッチへ「カチッ」と音がするまで押し込みます。



取り付けかた

7. 試運転



- ブレーカーを「入」にします。
- 各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。
スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

